

紅河デルタの歴史地理

—干拓とその変容—

チャン・アイン・トゥアン (ベトナム国家大学ハノイ校)

訳 野間晴雄

- I. はじめに
- II. 土地開発・干拓とその管理政策
 - (1) 古代と北属期の土地経営政策
 - (2) 阮朝 (1802-1858) の土地開発政策
 - (3) フランス統治下の (1858-1954年) の土地政策
- III. ティエンハイ県における1828年の干拓過程
 - (1) 19世紀初頭ティエンハイ県における社会状況
 - (2) ティエンハイ県の干拓過程
 - (3) 1828年以降の行政境界の変遷と土地開発過程
- IV. 結論

I. はじめに

20世紀初頭の紅河 (ホン川) デルタの人口は、650万人であった。面積は1.5万km²であるから、人口密度は430人/km²となる¹⁾。それが2005年には人口密度が1218人/km²にまで劇的に増加した²⁾。約100年間の人口増加がいかに大きかったかがわかる。

さらに次の3点が紅河デルタの特色としてあげられる。1) 過剰な人口は密集した集村に居住し、緊密な社会的関係を維持してきた。2) 一方、都市域の人口は小さい。しかし、都市が紅河デルタやベトナム全体のこれまでの社会経済発展には重要な役割を果たしてきた。3) 紅河デルタの人口の多くは農業

に従事する農民である。

ベトナムでは、1986年以降、ドイモイ (刷新) 政策³⁾ が国土全体および紅河デルタにおける社会福祉や経済の発展にめざましい結果をもたらした。農業部門でも、ベトナムは世界第2位の米の輸出国となった。とりわけ紅河デルタはメコンデルタにつぐ第二の米の生産センターとして知られるようになった。

紅河デルタの開発史は土地開発や干拓と密接な関連をもつ。とりわけ紅河デルタ沿岸域の人々にとっては、干拓はなにより身近な存在である。農地の人口圧が高いために、干拓は沿岸住民にとっては、食糧不足を回避し、貧困を緩和し、失業をなくする1つの有効な解決策であった。

本稿の主要な目的は以下の3点である。第一に、ベトナムと紅河デルタにおける土地開発・干拓の性格とその経営について論評することである。第二に、19世紀紅河デルタにおける沿岸域の干拓の典型事例で、かつ成功事例であるティエンハイ (Tien Hai) 県の干拓の歴史的過程を評価することである。第三に、ティエンハイ県の社会経済発展に与えた干拓の影響を分析することである。

II. 土地開発・干拓とその管理政策

(1) 古代と北属期の土地経営政策

ベトナムの土地政策史料は、古代のものか

キーワード：紅河デルタ，干拓，潮汐灌漑，ベトナム

ら残っている。土地、とりわけ耕地の管理をすることで、支配者層は必要な農産物を集め得ることができた。当時の文書によると、干満の差という潮汐作用を利用した灌漑耕地であるズオン・ハウ、あるいはズオン・ラック (*ruong hau, ruong lac*) と呼ばれるタイプの土地利用が強調されている。

紀元前111年から905年まで、中国諸王朝がベトナムを支配していた。この時期の土地管理政策は、農産物に重きを置くものであった。そこでは国有地が他の土地所有形態よりも重要であった。この時期、大多数の土地は国有となったが、時代を経るにしたがい、私有地がしだいに現れてきた。私有地を所有したのは、主として中国からの移民であった。それに加えて、ベトナム人郷紳の農場もあった。これらの農場の所有権は、形式上は依然として郷紳が支配していた村にあったが、実質的には個人とその子孫にあった。

905～959年の土地政策

ベトナムは中国の支配を脱却して約千年たった10世紀初頭に、完全な独立国家となった。907年、最初のベトナムの王クックハオ (*Khuc Hao*) は、旧来の重税を廃止して、ビン・クアン・トゥエ・ズオン (*Binh quan thue ruong*) 政策を採用した⁴⁾。この政策は、国全体〔訳者注：当時のベトナムの国土は紅河デルタを中心として周辺部を含む旧トンキンであった〕の土地は、村有地や私有地を含めて国有であるとするものであった。これにより、中国から移住した人々の私有地を制限しようとしたのである。この政策によって、農地から地税を徴収する正当性を第一に確立されたといえる。

つづく楊 (ズオン *Duong*) 朝 (931年-938年)、呉 (ゴ *Ngo*) 朝 (939-967) でも、この政策は多少の生産奨励や封建領主権力を強化するための改定を伴いながらも継承された。

丁朝・前黎の土地政策 (968-1009)

村有地システムの維持によって、丁 (ディ

ン *Dinh*) 朝や前黎 (レ *Le*) 朝は卓越した封建権力を維持し、郷紳たちの経済的利益を保障するために、さまざまな土地政策が実施された。しかし、それらの諸王朝は国家の統一を保持しつつ、郷紳が地方を牛耳ることがないように配慮した。

国有地から得られる税収は次のような目的に使用された。

1) ティック・ディエン (*tich dien*) と呼ばれる国有地のもとでの土地部門を確立すること。この土地利用タイプは最高次の土地所有で政府に属する。しかしそのことによって、個人の土地所有に大きな変化は一般的にはなかった。したがって、当時このタイプは特別の意義ある重要なものではなかった。

2) 丁朝・前黎朝は耕作希望者にはそれを保証するような政策を実施し、彼らから直接税を徴収した。さらに、農業生産をあげるための、次のような灌漑整備を行った。982年、ドンコー (*Dong Co*) 山 (イエンディン *Yen Dinh* 県、タインホア *Thanh Hoa* 省) から、バーホア *Ba Hoa* 川 (ティンザー *Tinh Gia* 県、タインホア省) へ水路を開削、ダーカイ (*Da Cai*) 川 (フングエン、ゲアン省) を浚渫し、1003年さらにはタインホアからラム (*Lam*) 川へ水路を結びつけた。

李朝・陳朝・胡朝の土地政策 (1010-1407)

この時代の一般的な土地政策の特徴は、公有・私有のすべての種類の土地に対し、国が最高次の所有者であること示したことにあった。この政策によって、支配に最も重要な集権的封建体制が確立すると信じられていたからである。それぞれの王朝は、独自の土地管理と土地関係を解決するための方法を有していたのである。

李朝

1010年に李 (リー *Ly*) 朝を創設したリー・コン・ウアン (李公蘊 : *Ly Cong Uan*) は、

すぐさま都をホアルーからタンロン（現在のハノイ）へ移すことを決定した⁵⁾。そのねらいは、都を国家の中心に置いて統一発展に寄与させるためであった。さらに最も重要な施策は、以下の4種類の土地利用の国有地を定めたことである。

- 1) ソン・ラン *Son Lang* : 王が直接所有・統治する土地で、王墓や寺廟を維持するための農地がそこに充てられた。すべてバクニン (Bac Ninh) 省のディンバン (Ding Bang) 社〔訳註: 社 (xa) は自生的な村落を本来意味したが、後には行政村も意味するようになった〕にあった。
- 2) ティック・ディエン *Tich dien* : 良好な自然条件の土地で、平野部のいたるところに散在していたが、主に農業に利用された。ここで収穫された農産物は王室への進貢物となった。
- 3) クオック・コー・ディエン *Quoc kho dien* : 王室用の土地で、もとをただせばその土地は土地開発で増えた土地や罪人から没収したものである。ここで収穫された農産物は国家の用途に利用された。
- 4) ドン・ディエン *Don dien* : プランテーションのことで、李朝には、開拓は主として軍人や囚人によって行われた。しかし目立った成果はなかった。

陳朝

陳 (チャン Tran) 朝期には村の共有地を維持することに力が注がれた。その目的とするところは、私有地化を防止する土地政策を実施することであった。というのは、この時期、ベトナム封建王朝のなかでは、大規模かつ強力に土地集積が進んで、貴族や地主による私的土地所有が進展したので、それを抑止する目的があった。

それまでの時代と比較して、国家の地稅収入には大きな変化はなかった。その一方で、カオ・ディエン (*Cao dien*) という新しい種類の土地が生まれた。これは罪人から没収し

た土地や開拓地を、比較的低い稅率で囚人に耕作させて農業生産をあげようとするものである。その努力にも関わらず、面積はそれほど大きくなかった。また、ドン・ディエン (*Don dien*) という範疇の土地がこの時代に急速に發展した。政府は地方のプランテーション開拓や、軍人や農民による干拓を管理する組織を作り上げた。

胡朝

胡 (ホー Ho) 朝は胡季犛 (Ho Quy Ly) の社会經濟改革が中心となった。その目的は、陳朝期に利益を最も享受していた貴族階級の私有地を調整して、中央支配力を回復・強化するための国家土地所有を促進することであった。1397年から、胡季犛の下で、ハン・ザイン・ディエン (*Han danh dien*)⁶⁾ という私有地制限法が公布された。限られた土地、土地からの収入や地稅を管理するために、胡朝は国土全体にわたる土地および人口調査を実施した。その結果、国全体の面積は1,749,170ha、人口は300~400万人が判明した。

後黎朝期の土地政策 (1428-1527)

土地登記によって政府は土地の地目や全体の面積を把握することが可能となり、特別の実践的かつ効果的な土地政策の実施が可能となった。

また後黎朝は、国家が所有する上述のティック・ディエン (*Tich dien*)、ソン・ラン (*Son lang*)、ドン・ディエン (*Don dien*) などの種類の国有地を繼承した。

また、この王朝期には、集団的開発のための政府許可を得るために、詳細な干拓過程の記録が記されたことも特記される。干拓過程には、トン・カオ (*Thong cao*) とチエム・サー (*Chiem xa*) の2つのタイプがあった。前者は土地所有者の居住地内の土地で、後者が居住地外の土地である。

(2) 阮朝 (1802-1858) の土地開發政策

阮 (グエン Nguyen) 朝は、長い南北間内

戦で経済が疲弊し、社会も不安定なものとなっていたベトナムを統一した。したがって、何よりも阮朝がしなければならなかった重要な事柄は、急速に農業生産を回復させ、生活を安定させるために、土地問題を解決し、土地管理を改善することであった。1803年に阮朝は30年間以上にわたる全国の地籍調査を開始した。地籍調査の目的は、調査対象の村の面積、地理的位置、全耕作面積、休閑面積、土地分類等の合計などを記載した土地台帳を作成することであった。

19世紀の前半においては、兵士、囚人と農民が土地開発の担い手の3つの柱であった。その方式には以下の6つの主要な形態があっ

た (Table 1)。表中の開発タイプのローマ数字が以下の I～VIに対応する。

タイプ I) 政府は農地を持たない村や不足している村に未開墾地や粉を与えた。その村の農民たちはその荒地を開拓し耕作する義務を負った。さらに借用地からの収穫物の一部を物納した。この形態はザーディン (Gia Dinh) 省[訳者注：現在のホーチミン市をふくむ省]で施行されたが、短期間に狭い範囲で適用されたに過ぎなかった。

タイプ II) 政府が貧農を募集し、資金、農具、籾米を貸し付けるものである。ザーディン省、ハーティエン省 (Ha Tien)、チャウドク (Chau Doc) 省、アンザン

Table 1 Land reclamation methods in the 19th century

Year	Form of reclamation	Place	Form of ownership
1820	I	Gia Dinh	Possession
1803	II	Gia Dinh	Possession
1807	T	Exiled places	Possession
1817	T	Binh Hoa Town	Possession
1821	II	Ha Tien, Chau Doc	Possession
1828-1829	V	Nam Dinh, Ninh Binh, Thai Binh	Possession
1830	T	Exiled places	Individual ownership
1831	VI	Nationwide	Individual ownership
1833	II	Nationwide	Possession
1835	II	Ha Tien	Possession
	II	The West Town	Possession
	I	From Binh Dinh to Binh Thuan	Possession
	II	Hai Duong	Individual ownership
1836	III	Quang Tri	Possession
1837	III	Bien Hoa	Possession
1838	IV	The Capital City	Possession
1840	II	Con Lon Island	Possession
	T	The South of Vietnam	State ownership
1842	T	An Giang	Possession
1843	II	An Giang	Possession
1850	T	Nationwide	Possession
1852	T	An Giang	Individual ownership
1853	V	The South of Vietnam	State ownership
1854	T	Ha Tien	Possession
1855	V	Khan Hoa	Individual ownership

Note: I-VI: Six methods of land reclamation in Nguyen dynasty

T: Prisoners were mainly labor force of this method

(An Giang) 省, コンロン (Con Lon) 島の荒蕪地を開拓するために貧農を送りこんだ。1803年以降には、この形態は南ベトナムで主に適用された。

タイプⅢ) 干拓地に住居の建設を希望する人々に、政府は資金と農機具を農民に貸与した。収穫後にそれら借りたものを現物で返さねばならなかった。この形態は1836年に、クアンチー省 (Quang Tri) 省, 1837年にビエンホア (Bien Hoa) 省で適用されたが、全国的にはさほど大きな影響を及ぼさなかった。

タイプⅣ) 開拓のために政府が農民を雇う形態。荒蕪地が耕作地となった際に、非課税で6年間の耕作権を有した。この形態は1833年に首都フエで適用され、特に市民に歓迎された。

タイプⅤ) 個人が貧農や土地なし農民を募集し、組を編成して開拓させ、それを国が承諾し彼らに農機具や資金の援助を行う形態。この干拓に関わった人々は、国が指示する場所のどこにでも、開発地主の指導の下で土地開発や村作りを行った。1828年にグエン・コン・チューが最初にタイビン省ティエンハイ県でこの方法を実施した。その後、ニンビン省では1829年に、6つの南部の省で1853年に、カインホア (Khanh Hoa) 省では1855年に実施された。

タイプⅥ) 国がすべての人々に開拓希望地を提出させ、その後、そこを開拓する。3年後に国が土地丈量を行い、土地登記をした後、次の3年間に開発者が地税を支払うもの。たいへん単純な形態であったが、あまり効果はなかった。1831年に実施された。

19世紀に阮朝は土地開発や干拓に関連した25の土地政策 (Table 1) を施行したが、それらは主として次の3つの集団に適用された。その3つの集団とは兵士、庶民と囚人である。

ある政策は特定の地域だけに影響を与えたが、ほとんどの政策は全国的な影響を及ぼした。阮朝は既存の土地所有関係を変革し、耕作地拡大のため新しい方法を導入し、国家権力を増大することに貢献した (Table 2)。

(3) フランス統治下の (1858-1954年) の土地政策

1858年以降、フランスは徐々にベトナムに侵攻していった。まずフランスはベトナムを3領域に分割した。すなわち南部はビントゥアン省 (Binh Thuan) からフランス直轄植民地までのコーチシナ (Cochinchina) である。中部 (ビントゥアン省からニンビン省) はアンナン (Annam), 北部はトンキン (Tonkin) で、それぞれを異なる支配体制のもとにおいた。アンナンとトンキンはアンナン王国に属

Table 2 Policies of land reclamation in the Nguyen dynasty

Forms of reclamation	Promulgated resolutions	State and village ownership		Private ownership	
		Number of resolutions	%	Number of resolutions	%
T	9	7	87.8	2	22.2
I	1	1	100.0	0	0.0
II	8	7	87.5	1	12.5
III	2	2	100.0	0	0.0
IV	1	1	100.0	0	0.0
V	3	1	33.4	2	66.6
VI	1	0	0.0	1	100.0

Source: Nguyen Duc Kha. *Lich su quan ly dat dai* (The History of Land management), 2003, p.31 (Vietnamese).

し、フランスの保護国とした。そして、港湾として重要なハノイ、ハイフォン (Hai Phong)、ダナン (Da Nang) の3都市がフランスの租界地となった。

フランスの土地政策は次のとおりだった。商品作物促進のためのプランテーション制度

フランスは様々な形でドン・ディエン制を実施した。1890年にはインドシナ連邦全体で116のプランテーション農園が設けられた。その大部分はコーチシナとトンキンにあり、ヨーロッパ人によって管理された。1900年にはプランテーション農場は全国で32.2万haに達した。うち7.8万haがトンキン、9.8万haがコーチシナに分令する。フランス植民地政策としてのプランテーション農場の創設は、ベトナム人から土地を取り上げ、小作人化させたり、多くの土地なし農民を発生させたり、プランテーション内での農業労働者化を推進させた (Table 3)。

南部における大土地所有制の発達

南部のメコンデルタ地域では広大な土地を開拓するため、フランスの植民者や彼らにし

たがうベトナム人下僕を自由とすることができるよう定めた。彼らはまた公有地や休閒地を占拠し、それを地主に再販売した。1901年現在、265のプランテーション農園がありベトナム人地主に18,000haを再販売した。多くのプランテーションの面積は2,000ha以上の規模であった。1930年、コーチシナには50ha以上の土地を所有する地主は6,316人いたが、トンキンでは50ha (北部基準18haに相当) 以上を所有するのはわずか1,060人、アナンでは少なくとも50ha (中部基準25haに相当) を所有するのは384人にすぎなかった (Table 4)。

中部・北部の共有地システムと小規模土地所有の維持

中部や北部ベトナムでは、農地が限られているうえに人口が稠密で、土地に固執する伝統的慣習が根強いため、土地集積は緩慢であった。1930年代初期に、共有地が占める面積比率は北部で20%、中部で25%であったが、南部では3%にすぎなかった。耕地不足のため、行政は村が共有地によって土地に

Table 3 Distribution of *don dien* areas in 1930

Area Zone	Total area (ha)	Rice planting area	Tea	Coffee	Rubber
The North	134,400	30,000	200	4,150	-
The Central	168,400	2,500	3,510	5,900	1,874
The South	606,500	253,400	-	650	97,804

Source: Nguyen Van Khanh. 2000, p. 87.

Table 4 Kinds of landowners in Vietnam in the period of 1930-1931

Zone Quantity	Tonkin		Annam		Cochinchina	
	No. of owners	%	No. of owners	%	No. of owners	%
Small owner < 5 ha	946,500	98.2	646,700	98.5	183,000	71.7
Medium owner 5 - 50 ha	17,500	1.8	8,900	1.35	65,750	25.8
Large owner > 50 ha	180	0.02	50	0.008	6,300	2.5

Source: Nguyen Duc Kha. *Lich su quan ly dat dai* (The History of Land management), 2003, p.31 (Vietnamese).

人々につなぎとめておくため、共有地を売却するのを禁止した。これは北部・中部の共有地がまだかなり広い面積を占める理由でもあった。しかし、多くの場合、共有地は地方の郷紳によって、小さい地片をごく短期間使用されるにとどまった。そのため、共有地での米生産は私有地よりも収量が低かった。

以上を要約すると、ベトナムにおける土地開発・干拓は2つの時期に分けることができる。第1期はフランスによるベトナム植民期以前で、ベトナム全土で土地開発・干拓が行われたが、とりわけ紅河デルタの沿岸域が中心であった。クアンニン、ハイフォン、タイビン、ナムディンおよびニンビン省などで、18世紀半ば～19世紀末を中心として行われた。第2期は19世紀半ば以降に、フランスがベトナムを植民地化した時期に始まる。この時期の開発の中心はベトナム南部のメコンデルタであった。

Ⅲ. ティエンハイ県における1828年の干拓過程

紅河デルタの開発過程を明らかにするため

に、タイビン省の沿岸の一つの県であるティエンハイ県の開発過程を以下に分析する。ティエンハイ県は干拓が最も成功した事例の一つで、短期間に耕地を海面に拡張していった。ティエンハイ県は北緯20度25分～20度48分、東経106度46分～106度62分、タイビン省の東南部に位置する。ティエンハイ県は三方を河川に、一方を海に囲まれている (Figure 1)。

県北部はチャーリー (Tra Ly) 川に接し、南シナ海のチャーリー河口に注ぐ。県の南部は紅河に接し、パーラット河口に注ぐ。ティエンハイ県の東部は南シナ海に面し、チャーリー河口とパーラット河口の間には23kmの平坦な潮汐低地と海岸線が連続する。ティエンハイ県はキエンスオン (Kien Xuong) 県と西の境界を15kmのあいだ接する。ティエンハイ町とラン (Lan) 河口の間の距離は15kmである (Figure 1)。

(1) 19世紀初頭ティエンハイ県における社会状況

18世紀末から19世紀初頭にかけて、ティエ

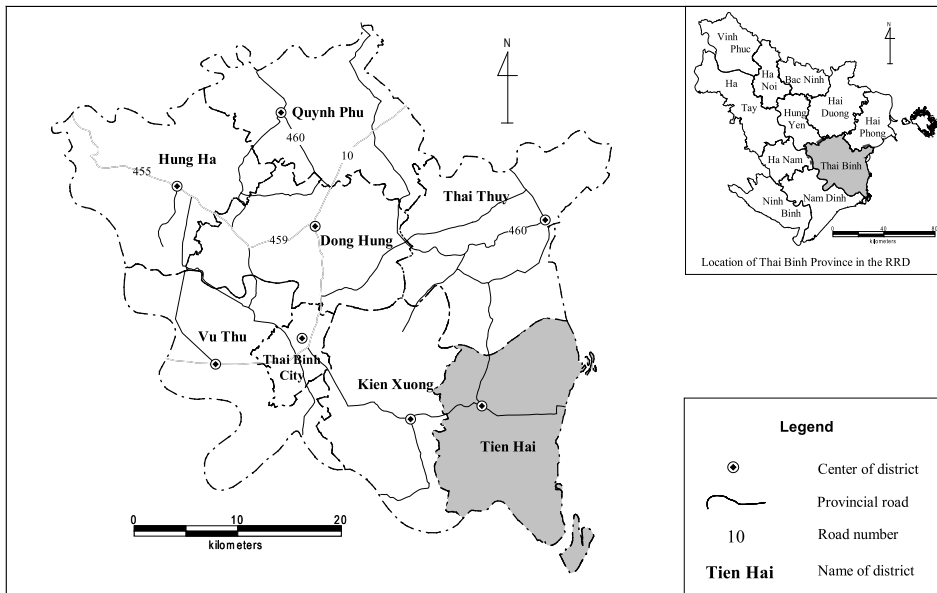


Figure 1 Location of Tien Hai District

ンハイ県一帯には封建的領主に反対する多くの農民反乱が発生した。1802年、ベトナムは阮朝に統一された。阮朝の政治は共有地制度を維持し、農業労働者にその土地を割替て配分し貧困を軽減しようとした。但し、郷紳や地主の汚職や政治的陰謀のために、土地は上流階層が独占した。

地域がますます貧困化するのに、農民たちは耕作すべき土地がなかった。阮朝期には、特にニンビン省、ナムディン省、タイビン省からハイフォン市ドーソン (Do Son) といいた紅河デルタ沿岸地域において、武装した小作人による農民反乱が多発した。とりわけファンバーヴァイン (Phan Ba Vanh) 農民反乱が著名である。政府もこの農民反乱を鎮静するために長い期間と努力を要した。

グエン・コン・チュー (Nguyen Cong Tru : 阮公著)⁷⁾ の領土拡張以前には、ティエンチャウ (Tien Chau)⁸⁾ 堆積地域の人口は希薄であった。このティエンチャウは、主としてダイホアン (Dai Hoang), ティエウホアン (Tieu Hoang), ディエムディエン (Diem Dien) のような隣接する古村からの人口移動の結果であった。その移住の目的は、少数の村立てを行うことであった。1828年以前は、地域の経済は基本的に農業と漁業で、かなり低い段階にあった。農民たちは南へ傾斜する低窪地に稲を作付けたが、その生産性は土壌に含まれる塩分のために低かった。そのため彼らは、砂丘地に屋根葺き材となるスゲ (sedge) を植えて海水の飛沫を防ごうとした。その一方で、人々は漁業や製塩で日々の生活の糧を得ていた。一般に、ほとんどの経済活動は世帯レベルにとどまる自給自足的なものであった。

(2) ティエンハイ県の干拓過程

主要な干拓の目的

陸化干潟が卓越するティエンチャウは広大で肥沃な土地ではあったが、これまでほとん

ど未利用であった。したがって、地域の人々は限られた農地しかもたず、生活は貧しかった。

土地開発の主な目的は次の2つであった。

(i) 政府や地域の農民の対立があった沿岸域の社会状態を安定させること、(ii) 土地なし農民のための耕作地を拡大し、政府の税収を増すこと。

土地開発過程

ゾアイン・ディエン (*doanh dien*) は阮朝期における先述した第5番目の土地開発の形態である。貧農や土地なし農民に農地を拡大させるために、政府はこの方式を発動し彼らに資金を融資した。政府との契約には2つの形態があった。すなわち、(i) 労働者に資金を提供すること、(ii) 土地開発過程を管理・組織するために、土地開発局 (*Doanh dien su*) を立ちあげること、の2点であった。

人員組織

グエン・コン・チュー (1778-1858) は、ラーカオ (La Cao), アンカング (An Khang), ダイホアン (Dai Hoang), ティエウ・ホアン (Tieu Hoang), トゥーディエン (Thu Dien), フオンコン (Phuong Cong), バック・チャック (Bac Trach), チャンディン (Chan Dinh) 県のロンハウ (Long Hau) 川の西部の古村の人々を動員した。アンハー (An Ha), アントゥー (An Tu), ドンハオ (Dong Hao), ドアンチュン (Doan Trung), ナムドン (Nam Dong), タインチャウ (Thanh Chau) (以上ザオトゥイ Giao Thuy 県), トゥオンタム (Thuong Tam), ドンミン (Dong Minh), フックケー (Phuc Khe), タンフオン (Than Huong) (以上タインクアン Thanh Quan 県) などの人々である。いずれもこれまでに干拓経験を有する重要な人材であった。

人々を管理するためには、グエン・コン・チューは開発農民の募集方法を考案し、それらを以下の4つの範疇に分ける方式を提案した (Figure 2)。「富裕な人々は土地開発の責

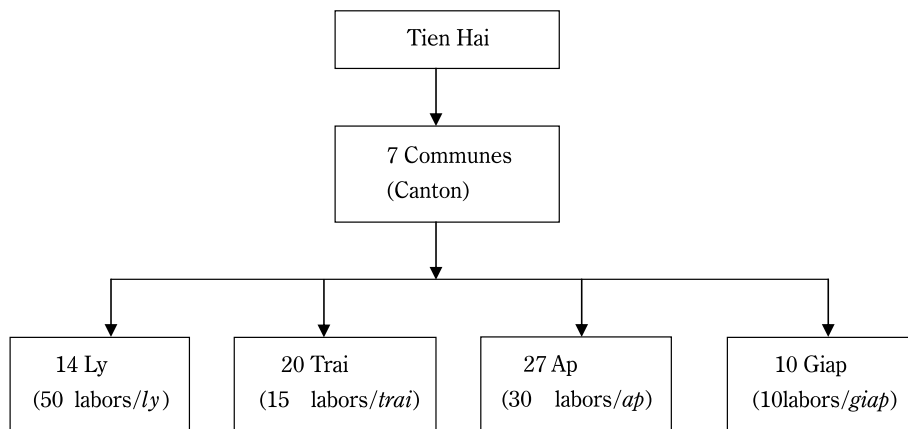


Figure 2 Model of administrative system of Tien Hai District in 1828

任者となり、労働者が50人⁹⁾規模の場合はリー（里Ly）を設置して里長となる。また同様に30人規模の場合はアップ（Ap），15人規模の場合はチャイ（Trai），10人規模の場合はザップ（Giap）を設置し、長となる。」

最初に村立した人をグエン・チエウ・モー（Nguyen chieu mo）と呼んだ。この人たちは労働者を組織化する責任を負う代わりに、開発地域を配分され、その開発資金を供給された。自分の組に所属する農業労働者に対しては、農器具・資材を供給した。労働力はピラミッド形の階層構造で管理された。この方法は土地開発の方向づけを学ぶのに有効で、明らかに政府がすべての人民に対して義務を掌握管理し、割り当てることがもっとも容易であったことが証明された。もし1人の労働者

が仕事をやり残したら、グエン・チエウ・モーは彼の班から交代要員を出さねばならなかった。

経済支援

このプロセスにおいて、阮朝は直接に経済支援をした（Table 5）。但し、必要とされた予算は支援額より当然大きかった。この問題を解決するためには、グエン・コン・チューは富裕層から開発資金を集め、それらを労働者に配分した。さらに新村を管理するために、長（チュオンtruong）を任命した。彼らは新村の規模に応じて、Ly長、Ap長、Trai長、Giap長と呼ばれた。この方式は農民の資金調達を容易にした。そのため、政府および農民相互に利点があった。

農民5人に対して水牛1頭と、まぐわ、す

Table 5 Basic investment of the government

Unit	No. of laborers	Buying buffalos*	Buying farming tools*	House-building support*	Total*
Ly	50	300	40	100	440
Ap	30	180	24	60	264
Trai	15	90	12	30	132
Giap	10	80	8	20	88

Source: Doan Dinh Thi. *Tien Hai mien que lan bien* (Tien Hai - Land Reclamation Area), 2000, p.133 (Vietnamese).

* Currency unit: Quan¹⁰⁾

き、鋤および鎌が1丁ずつを供給された。農機具すべては政府が労働者に直接与えた。政府はまた最初の開発期間6か月分の各労働者のための食糧を供給した。3年間の免税の後に、労働者は私有地の地税を支払うことになる。

干拓後の土地利用

・ティエンハイ県の土地管理システム

ティエンハイ県の土地管理システムは1828年9月に確立された。その結果によると、2,350人の総男子労働者(18歳以上)を数えた。開拓された土地面積の合計は18,970マウ¹¹⁾である(1マウmau=4,894m²)。ティエンハイ県は7つの社に分かれている。タンアン(Tan An)、タンコー(Tan Co)、タンディン(Tan Dinh)、タンボイ(Tan Boi)、タンフォン(Tan Phong)、タンフン(Tan Hung)、タンタイン(Tan Thanh)¹²⁾にあるティエンハイ県の中心はフオンライ社(Phong Lai)に位置する。1848年以降にホアantan(Hoang Tan)社からティエンハイ町に昇格した(Figure 3)。

このシステムでは、Ly, Ap, TraiおよびGiapのような社レベルの下に複数のタイプの集落が存在した。干拓当初は労働者の数に基づいて、集落規模とその位置が、グエン・コン・チュウと土地開発部(Figure 2)によって設計された。

村落計画

地形からみると、ティエンハイ県には2つのタイプの村があった。すなわち、村落領域の定まった村と非領域の村である。

・村落領域の定まった村

村落領域の定まった村はロンハウ川の西側堤防にあった。これらの村は4つの社、すなわちタンボイ(Tan Boi)、タンディン(Tan Dinh)、タンアン(Tan An)、タンコー(Tan Co)である。これらの社のメンバーは後背地の村から主として移住してきた。彼らの多くは土地なし農民であった。さらに、それらの新しい社は旧来の社と親密な関係を有し

ていた。勝手知った親村から人的援助のみならず、食糧および生活に必要な物資の援助まで受けていた。したがって、新しい社は干拓地の土地開発を最少の期間で終わることができた。それに加えて、村落領域の定まった村は、酸性土壌や塩性土壌の土地が少なく、淡水の水源が近くにあつて、集約的耕作のために有利な条件であった。

・ロンハウ(Long Hau)川の東部堤防とラン(Lan)川の南部堤防にある非領域村

これらの村の典型的な特徴は、干拓プロセスを忠実に追求できることである。農地の拡大は水産養殖を可能にし、また魚を採取することができる。これらの村は東西方向に以下の通りに設計された(Figure 3)。村の境界は人工水路と小道であった。村道の幅は6 dac(360m)から10 dac(600m)で、それらは労働者総数によって決まっていた。

土地配分政策

干拓後のティエンハイ県の土地は、2つのタイプに分かれる。1つは共有地(*cong dien cong tho*)で、もう一つは私有地(*tu tho cu, tu tho uong*)である。

・共有地

グエン朝の王朝の土地利用の政策にしたがつて、共有地は次のいくつかの範疇に分かれる。例えば100マウの中では、農業目的のために70マウが使われ、亭(*dinh*)、寺院、道路をなどのインフラ建設するための30マウが使われた。新社のすべての労働者は農地を割り当てられ、3年間耕作した。その後、農地は村の労働者数にしたがつて、全男子労働者に再配分された。労働者に息子がいないか、または息子が18歳より若い場合には、農地は手放してもよいとされた。

・私有地

あらゆる労働者は屋敷地と菜園地農ための土地の1マウを受給される。村長(*nguyen chieu mo*)はさらに9サオの屋敷地と苗代地を受け取る。なお、私有地は相続が可能である。

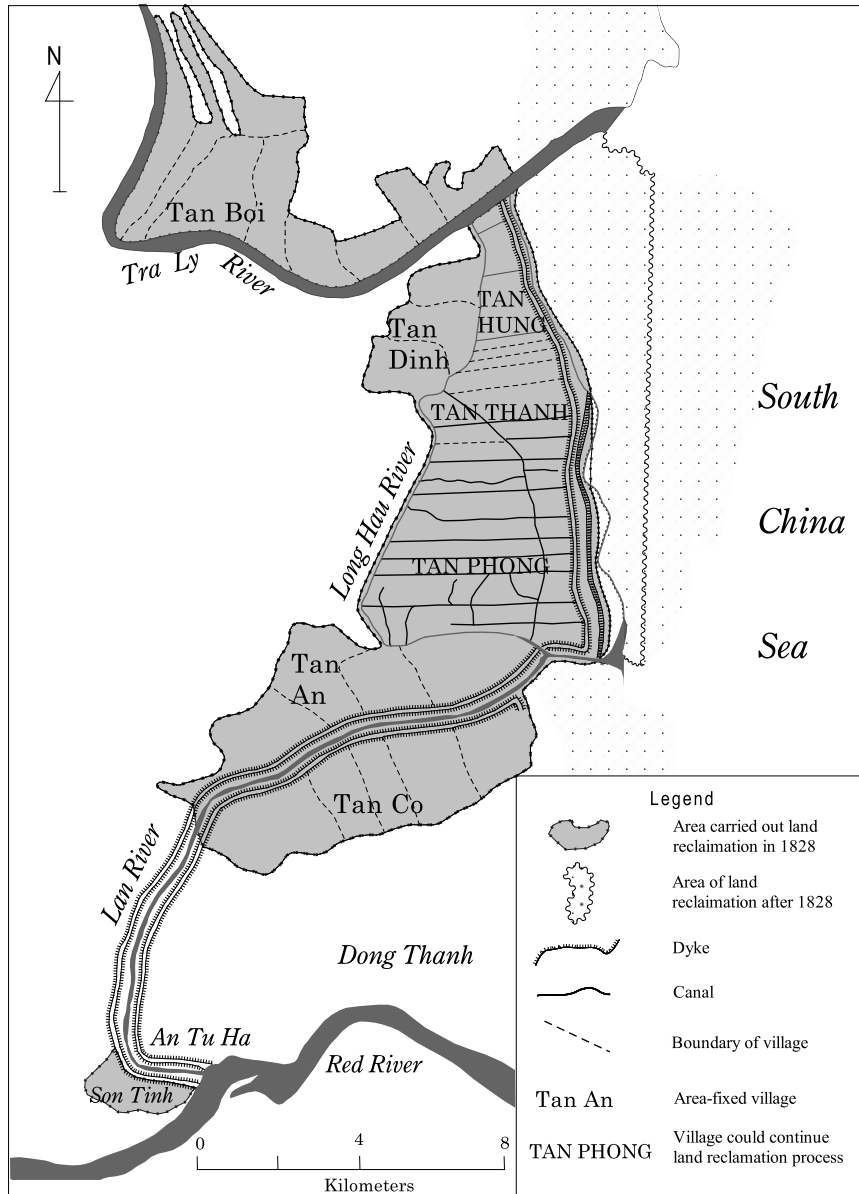


Figure 3 Location of Tien Hai District

堤防・用水システムの管理

干拓には河川堤防や海岸堤防のシステムを造り、用水を管理するという2つの重要な仕事があった。

・堤防造成

Ap, Ly, Trai, Giapの区分ごとの労働者数

に応じて、各社は堤防のある特定の部分を建設しなければならなかった。例えば、スアンホア (Xuan Hoa) 村は、建物17dac (1dac = 60m) の堤防建設の割り当て責任があり、フアンタン村では1dac、トゥチン (Thu Chinh) 村20dac、ナンティン (Nang Tinh)

村は24dacとそれぞれ定められていた。

それぞれの干拓区域は以下のような堤防システムとなっていた。

ホアンタン村からチャーリー右岸川口にかけての堤防，プーケー村（Phu Khe）からダン（Dan）町への延長11kmの左岸堤防（Figure 4）。

ラン川には，堤敷8m，上敷4m，堤高3mの堤防が建設された。

カー川堤防ロンハウ川，コーグア（Co Ngua）川の堤防はより小さい規模であった。しかしある村では，最初の堤防が壊されるおそれのある場合は，二重堤防を建設した。実際わずか6ヶ月の間に，明命（Minh Mang）帝はグエン・コン・チューに命じて，ティエンチャウ（Tien Chau）の人々に干拓させ

た。明らかにその負担は大きく，たいへんな困難をともなった。それにもかかわらず，堤防建設の方式は，既存の砂堆をつないで堤防を接続する独特の方式であった。ティエウホアン（Tieu Hoang）堤防やマーザム（Ma Giam）堤防建設の経験に照らして，グエン・コン・チューはこの地の農民たちに海を囲い込むように命じた。この政策はティエンチャウ地域の堤防システムがわずか6ヶ月で完成した理由の1つだった。

氾濫期には，塩水がチャーリー川，ラン川，カー川に沿って遡上する。そのため，グエン・コン・チューはこれらの川に堤防を造ることが早急に必要であることを理解していた。カー川はそのうち最も小さかったので，最初に建設された。史料によるとその堤防は

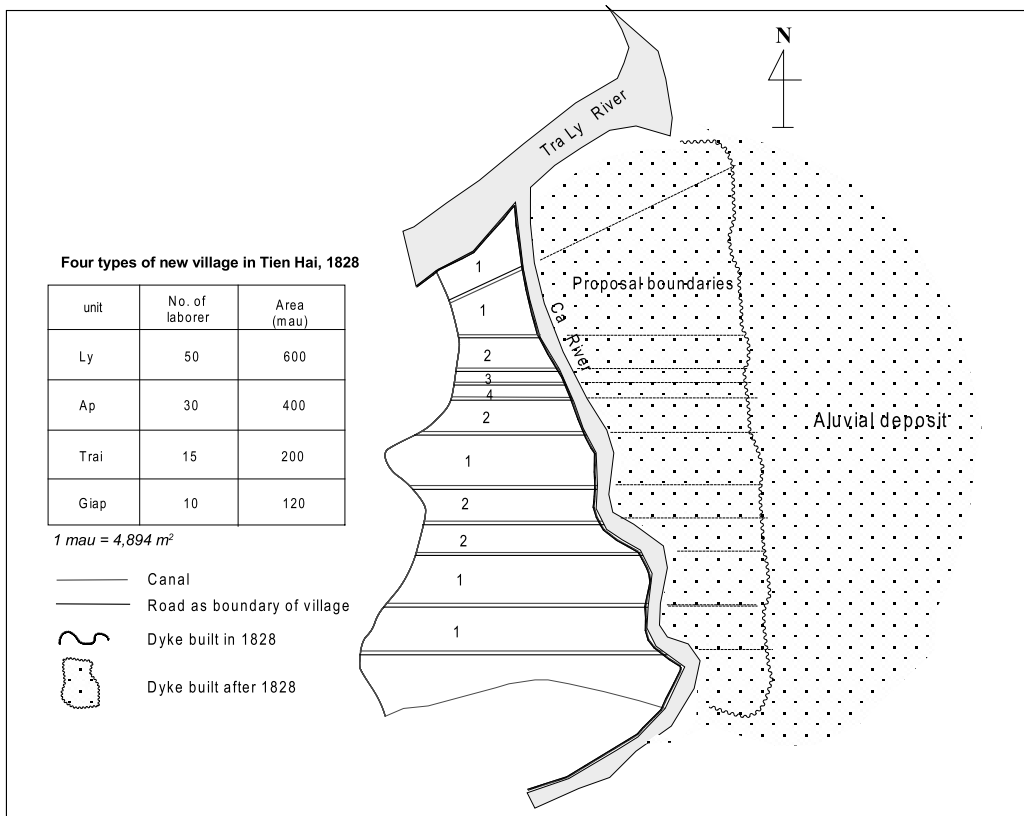


Figure 4 Method of making boundaries in Tan Phong village

川の右岸に位置していた。チャーリー川とラン川の二重堤は洪水防御に大きな役割を果たした。

・用水管理

干拓の結果、ティエンハイ県には河川や人工水路の密接なネットワークが形成された。

いくつかの大きな河川は以下の通りである。ロンハウ川はチャーリー川の南で合流する自然河川であるキエンザン (Kien Giang) 川をキエンソン (Kien Xuong) 県であわせて東に流れ、河口のラン川付近に注ぐ (Figure 5)。

グエン・コン・チュウはこの地域の川を水

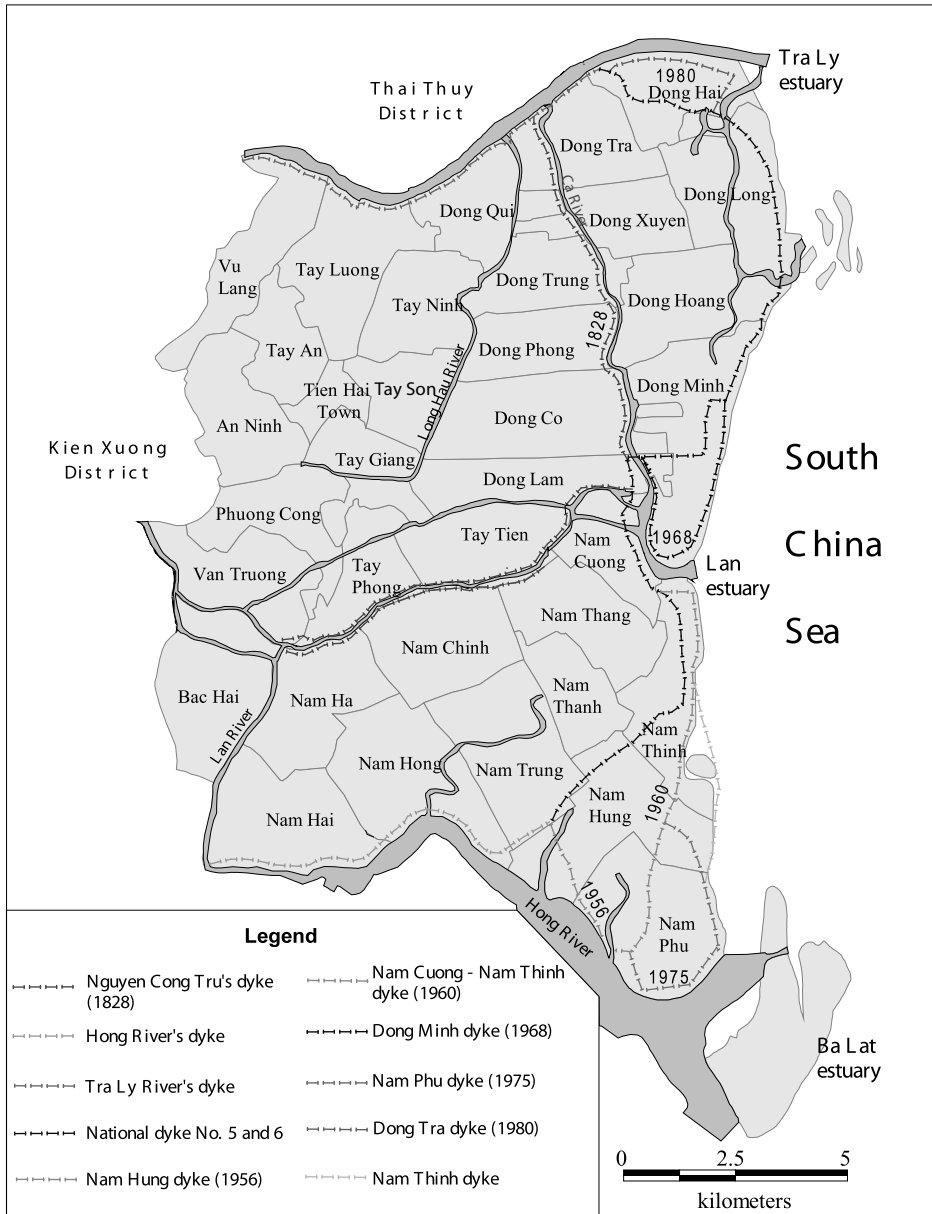


Figure 5 Map of dyke system in Tien Hai District

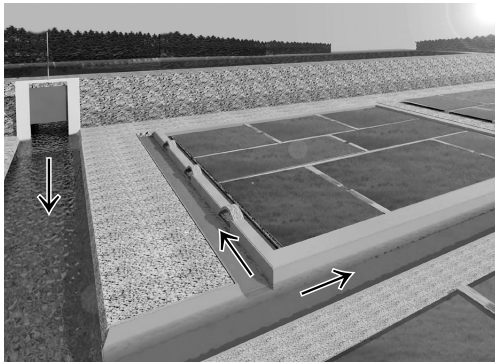


Figure 6 The model of tidal irrigation system

運に利用するという賢明な決定した。このことは村落方式 (Figure 2) とそのあとでできた潮汐灌漑方式 (Figure 6) を科学的に熟知していたことの証左でもある。

沿岸村落はロンハウ川の先端とつながり、もう1つの端は海にむかうという特徴をもつ。灌漑のための掘削浚渫が行われ、用水がロンハウ川から海岸に沿った村落を灌漑する。その結果、集落や農地は人工水路に沿って立地することとなった。

水路には次の2タイプがあった。その一つは、2つの土地間の水路は農舟が移動するために十分に広くとられていた。2村落間の水路は、幅3m、水深3mであった。どちらの人工水路も、米や肥料を運ぶために比較的幅が広い水路であった。同時に、水路は灌漑用水も供給し、酸性や塩分を洗い流して中和した。水路網に交差して、時々灌漑用の小さい水路が掘られている。その形は方格状で、水田末端にまで用水を配分できる。東部の村には14の水路があった。

重要な計画の一つが、堤防の下に通る樋管である。グエン・コン・チューは2つの大規模で重要な樋管建設を命じた。それがロンハウ川とカー川のディンクー (Dinh Cu) 樋管である。それらはチャーリー川から引水した。このほかにも、内部にも樋管やその他の渠があった。

村の中での水路や溝渠 (クリーク) は灌漑用で、村の境界や農舟やその他の交通手段の道筋として利用された。堤防は道路としても利用された。堤防は、また、村や農地を計画する科学的な基準ともなった。

グエン・コン・チューはティエンハイ県でのダン・トゥイ・ナップ・ディエン *dan thuy nhap dien*¹³⁾ を実践した。

満潮時、チャーリー川の下に設けられた樋管は閉口され、ロンハウ川やカー川に用水を取り入れ、それ水田まで配水する。水路の水位が田面よりも相対的に高くなると、溝渠の樋門は水田に灌漑するために開けられた。この方式は、労働力の軽減とはならないが、灌漑にはすこぶる有効である。一般には‘チューチャイ *tu chay*’¹⁴⁾ 方式として知られ、非常に効果的な方式として知られていた。

潮が引き始めると、すべての樋門は閉じられて、水田内に用水が入らないようする。

排水するには、潮が引くのを完全に待つ。それから樋管内部の水位が河川水位よりも高くなり、それぞれの耕地から溝渠に伝わり、それから人工水路に排水される。もし、用水を水田内に貯溜する場合は、溝渠の樋門を閉める。

この方式のいちばん重要なポイントは樋門の開閉のタイミングであり、熟練した管理技術者を必要とする。ティエンハイ県の太陰暦潮汐表を用いて、1年のうち132日樋門を開閉することになっている。

いっぽう、県内のある地域、とりわけ新たな干拓地では土壤塩分を除去することが必須となる。作物作付け期間中3回の塩分除去が行われたが、とりわけその必要性が高いのは乾季 (冬作物、以下の1回目) であった。その技術は以下の通りである。1回目一稲収穫後、耕起すると塩分が田面に表出するので、それを淡水で洗い流す。2回目一水田での除草、移植時。3回目一稲の成育時。



The main culvert takes water from the Tra Ly river to irrigation system



The canals are along the road, they are also the boundary between villages



Smaller culvert take water to paddy field



Contemporary culvert of irrigation system in Tien Hai district

Figure 7 Pictures of the contemporary irrigation system in Tien Hai District

(3) 1828年以降の行政境界の変遷と土地開発過程

ティエンハイ県の土地開発過程は1828年を劃期として、これ以降の時期とはかなり異なる様相を示す。1828年の干拓はグエン・コン・チューの指揮の下でわずか6か月で実施された。封建領主たちはその資金や食糧、農具などを提供してその干拓事業を支えた。

これ以降は、小規模団地を地元の集団が少しずつ干拓する方法である。小規模干拓は県内各地で行われたが、とりわけ19世紀後半のドンタイン (Dong Thanh) カントン (canton) [訳注：のちに多くが県となる行政区画で漢字では総と記す] で顕著であった (Figure 8)。総干拓面積は4762マウで8つの新村が誕生し

た (Table 6)。

ティエンハイ県の成立は、急速な干拓の拡張によるといってよい。ドンタイン (Dong Thanh) 社8村の面積は、1828年に成立した2社の面積とほぼ等しかった。

1831～32年、阮朝の明命帝は国家行政単位の抜本的な改変を実施し、国全体を31の省に分けた。ナムディン省はナムディン町と4つの県となった。ティエンハイ県はもとチャンディン (Chan Dinh) 県に属していた。その後、いろいろ村や社の併合分離を経て、ティエンハイ県は1890年3月21日にキエンズオン県 (Kien Xuong) に属したが、その他の県は隣県に所属することとなった。何回もの境界変更の後、近隣県に分かれたり併合され

Table 6 Area of 8 new villages in Dong Thanh Commune

No.	Name of village	Area (mau)	No. of laborers
1	Quan Man	1,049	98
2	Noi Lang	355	46
3	Ngu Khu	1,378	94
4	Phuong Vien	258	120
5	Bat Cap	351	106
6	Dai Dong	284	117
7	Dong Phu	711	199
8	Chau Nhai	382	218

Source: Pham Thi Net. “*Tien Hai tu sau ngay thanh lap*” (Tien Hai - when after its establishment”, 2001 (Vietnamese).

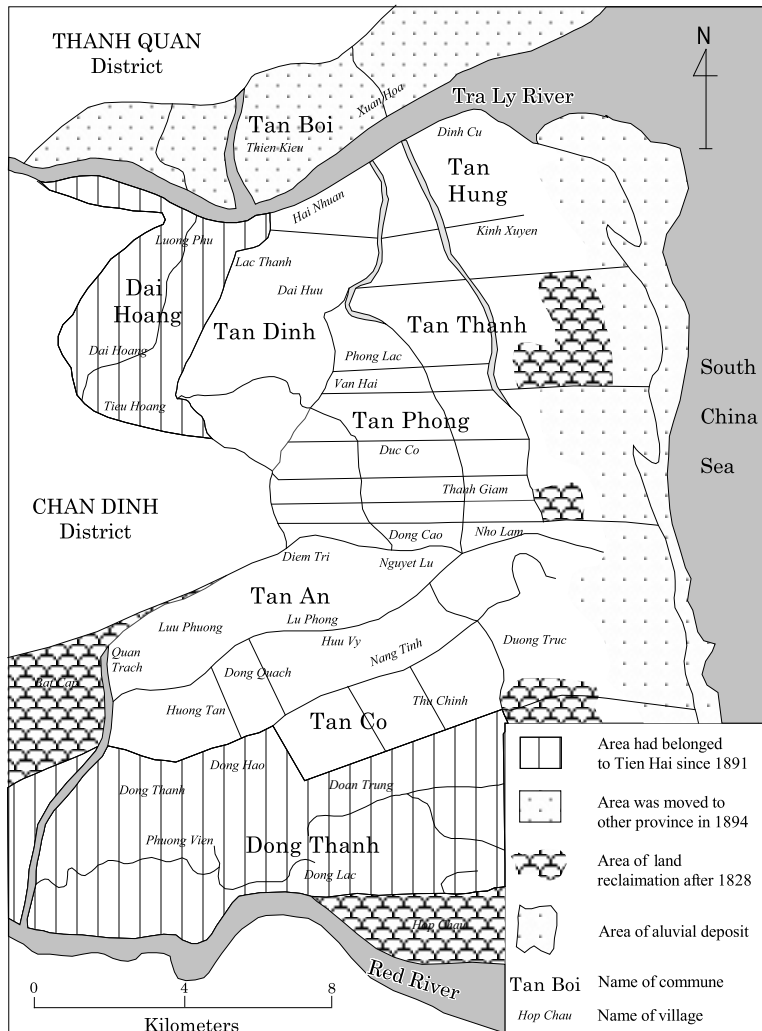


Figure 8 Map of dyke system in Tien Hai District

たりしたが、多くのカントンや村はティエンハイ県に併合された。初期干拓から100年たった1928年にはティエンハイ県は8社と79村からなっていた。

1946年4月1日、タイビン省人民委員会は最初の議会を開き、行政区画としてのカントンを廃止し、県に名前を変更することを決定した。その結果、ティエンハイ県は12の県の1つとなり、そこには11社が属することとなった。この行政単位は1946年～1954年の間維持された。

1955年、ティエンハイ県は3つの地区に分割された。すなわち、東、西および南地区である。それぞれの地区には、10、12、8の社で構成される。1969年、政府はティエンハイ県にキエンスオン (Kien Xuong) 県から5つの社を併合することの決定を下した。1986年12月13日に閣僚会議でドンチャー (Don Tra) 社をドンハイ社 (Don Hai)、ドンチャーの2社に、ナムフン (Nam Hung) 社をナムフンとナムフー (Nam Phu) の2つの社に分割した。これ以降の行政単位の変更はない。その結果、現在のティエンハイ県は34社1町である。

IV. 結論

紅河デルタはベトナムの社会経済開発に重要な役割を果たしてきた。紅河デルタは長い歴史をもつ「ベトナム国家のふるさと」として知られている。

紅河デルタの干拓事業は以下の理由からたいへん共興味深いものである。1) 沿岸低地の農地拡大と就業活動の創出により農民の生活改善を目的とする。2) ベトナムの歴史は他国や内戦に関連する多くの出来事の連続であったといえる。そのため社会・経済情勢はその都度変化し、地域の人々の生活状況も変わる。そのなかで農地拡大は農民の生活改善に大いに寄与する。と同時に、税や農業生産の増加により、封建領主も地税など多くの利

益を見込めた。3) 干拓技術や管理方式は国内での多様性・地域差が著しい。海面干拓地の潮汐灌漑であるゾアイン・ディエン (*doanh dien*) はとりわけ有名で、かつ有効な方法であり、紅河デルタの各地で適用されて成功をおさめた。

1828年にティエンハイで実施された潮汐灌漑方式の干拓は、大きな社会・経済的發展をもたらした。それは農地拡大を必要とする人々、とりわけ貧農の要求から生まれた。付け加えると、グエン・コン・チューはまさにこのような場所を選んだのであり、ティウチャク海岸はその当時は大きい面積を占めていた。干拓は農民反乱を沈める緩衝材ともなった。そのため、干拓事業には国中から農地を持たないじつに多くの貧しい人々を引き付けたのである。それに加えて、地元の干拓請負リーダーたちの洗練された技術や組織力によって、移住や海面囲い込み過程がうまくいき、1828年の干拓事業は大きな成功をおさめたといえよう。

その結果、ティエンハイ県では面積18,979マウ、71村、成人男子労働者2,350名となった。その成功の裏には、自然要素として肥沃な沖積地が存在したこと、社会的要素（適切な人的組織）や経済的要素（国からのインフラ・財政補助）、技術的要素（堤防技術および村による管理）が存在した。

その上、関係者の権利にも注意が払われたことも成功の要因として大きな刺激となった。1828年から19世紀末にかけて、干拓事業は重要な役割を担い、ローカルな人々が積極的にそれに参入した。多くの干拓事業は小規模ではあるが、農民の自発的なものであった。ティエンハイ県の南のドンタイン (Dong Thanh) 社ではその動きが顕著である。

なお、灌漑施設の建設と管理操作は、干拓過程に重要な役割を後に担うこととなった。潮汐灌漑方式の一種であるダン・チュイ・ナップ・ディエン (*dan thuy nhap dien*) は在

来技術を駆使した独特の方式であった。この技術は潮汐水位変化を利用して、如何に新しい用水を農作物に供給し、土壤塩分を洗い流すかにかかっている。そのための堤防の下に設けられた樋門の開閉タイミングがたいへん重要で、熟練した樋門管理技術者に成否が握られている。

謝辞

同僚の地理学部土地管理学科のグエン・ドック・カー (Nguyen Duc Kha) 氏は本稿作成に関して常に励ましと助言をいただいた。また、関西大学の野間晴雄教授には論文全体にわたりたいへん有益な助言をいただいた。記して謝意を表したい。はえある日本歴史地理学会50周年記念国際会議でこのような機会を与えていただいた石井英也会長、会場校の日本大学の皆様に感謝します。

〔注〕

- 1) Pierre Gourou. *Les paysans du delta Tonkinois: Études de géographie humaine*, 1936, p. 7.
- 2) General Statistic Office. *Statistical Yearbook of Vietnam in 2005*, p.29.
- 3) ドイモイ (Doi Moi) 政策は、計画経済から市場経済への移行の経済改革である。1986年の第6回共産党大会で決定された。詳しくは以下の文献参照のこと。(1) Ha Huy Thanh. "Economic Growth and Social Equality in Sustainable Development", *Vietnam's Socio-Economic Development*, 37, 2004, pp. 12-17. (2) The World Bank in collaboration with the Asian Development Bank. "Vietnam - Delivering on its Promise", *Vietnam Development Report*, 2003.
- 4) ベトナム語のビン・クアン・トゥエ・ズオン (*binh quan thue ruong*) は国有、私有を問わず同じ税率の農地税をとることを目的とした。それ以前は、私有地は郷紳や中国人移住者、富裕層の所有であり、国有地よりも税率が低かった。Vu Thi Phung. *Giao trinh lich su nha nuoc va phap luat Vietnam* (History of Governments and Laws in Vietnam), 1997. (ベトナム語).
- 5) ホアルー (Hoa Lu) はニンビン省に位置し、タンロン (ハノイの旧称の一つ) から100km以上離れている。
- 6) *an danh dien* はベトナム語で私有地の土地政策を意味する。
- 7) グエン・コン・チュー (1778-1858) は阮朝期に多くの干拓を実行した人物としても著名である。
- 8) Tien Chauは、元来はティエンハイ県が成立以前の沖積地の名称であった。
- 9) *Dinh* はベトナム語で18歳から60歳までの男子労働者を意味する。1945年以前には公文書で用いられた。Pham Thi Net. *Tien hai tu sau ngay thanh lap* (『ティエンハイその成立以後』), 2001 (ベトナム語)。
- 10) クアン (quan) は阮朝の通貨単位。
- 11) マウ (mau) は歴史的な面積を示す度量衡単位で、20世紀以前に用いられた。
- 12) タン (tan) はベトナム語で新しいもの意味する。したがって、社はこの名前をつけはじめ、ティエンハイ県では干拓の結果を示している。
- 13) *dan thuy nhap die* は水を引水する方式である。
- 14) *tu chay* は自然灌漑方式を意味する。干潮と満潮の潮位差による水位変化にもとづく。